

ORANGE CUP 2024

拓殖大学 工学部 第14回 アイデアのタネコンテスト

テーマ **未来の公園** 新しい発想で公園を活かそう



巻野 伶奈 / 愛知県立岩倉総合高等学校

キャッチフレーズ

三種の神器が守る子供の楽園

アイデアの説明

私は公園の主役は子ども達だと考えた。しかし最近、子どもたちの運動不足や体力低下が社会問題となっている。将来活躍する子ども達が生活習慣病にかかるリスクが高まり、社会全体の活力低下に繋がる可能性がある。その原因は室内遊び、ゲーム時間の増加、公園などの遊び場の減少などがあげられる。現在多くの公園がボール遊びが禁止になっていたり、騒音トラブルによって閉鎖されている。

子ども達の騒ぐ声やボールの音がうるさいといった大人たちの都合によって子供たちの遊びが失われつつある。私の小学生の弟もサッカーをして遊びたいけど出来る場所がないから友達とゲームをしていると言っていた。公園のルールが厳しすぎて何も出来なくてベンチでゲームをする子も少なくない。そこで私は子ども達がのびのびと遊べる公園を作るべきだと考えた。



騒音問題は以前ニュースで見た二つの音が重なった時、片方の音がかき消され鳴っているのに聞こえなくなるマスキング効果を取り入れると効果的だと考え、音だより騒音になりかねないと思い、音の周波数でも同様の効果が出るのではないかと考えた。この考えから音の周波数が変わるとに適宜自動で働き、音を低下させてくれる「マイルドサウンドメーカー」を思いついた。このロボットが公園にいれば、子ども達が大きな声を出して遊ぶことができ、近隣住民が公園の騒音でストレスを抱えることもなくなると考えた。

また、ボール遊びが禁止されている理由がボールが道路に出たり、家に当たると危ないからということが大半だったため、専用のシールをボールに貼るだけで必ずキャッチしてくれる「鉄壁の守護神」がいればその問題は解決し、子ども達が心置きなくボール遊びができ、道路に飛び出して起こる交通事故も減少し、建築物に当たる事も無くなると考えた。

子ども達がストレスを感じていることが他にもある。低学年の子ども達は高学年がいると公園に入りにくかったり、逆に高学年は低学年が公園にいると遠慮してあまり遊べないということがある。リアルタイムで公園の様子をアプリで見れるようにすればお互いストレスなく遊べるようになると考え、「空の見守り鳥」を思いついた。監視カメラ付きで自動通報もしてくれるため不審者の心配もなく子ども達の安全が保障される。公園に行く前にアプリを見て公園にいる人達が一目で分かるため、自分が行きやすいタイミングで公園に行くことができる。

この三種の神器が公園にいれば公園を利用する人も近くに住む人もお互いにストレスなく過ごすことができ、子ども達の運動不足解消にも繋がると考えた。